

変化し続けることのエッセンスがここにある

---

今回の企画は、前号での「コロナ禍の軌跡」に引き続き、嵐のごとく過ぎ去ったかのように見えるコロナ禍後の「after コロナに向けて」、継続するもの、改善するものなど、今後の展望を記載する目的で本号の特集が組まれた。

各専門領域の教員が引き続き活用していたのは、コロナ禍で培った、感染対策として使用せざるを得なかった、非対面授業の方法である。これまでの授業方法の在り方を根本的に見直すきっかけを作ってくれたのがコロナ禍という非常事態であり、そこから新たに生み出されたものが多かったのではないだろうか。

教員個々から教員チームで模索しながら発展させた教育方法や学生などの対応方法は、コロナ禍後も引き続き取り入れたものと更なる進化を遂げたもの、そして対面授業の意義や価値を再認識するものもあった。

どのような環境であろうと、できることを模索し、想像的に考え、発展していくことが教育機関には求められている。この号を通読し、全教員が学生の教育のために、日々ご尽力されていることに、改めて敬意を表したい。

---

---

---